

南極ってどんなところ？



7月20日、南極昭和基地と稚内をつなぐ「南極教室」が稚内中学校で開催。テレビ会議システムを使い、南極からは第57次観測隊員が自然や動物の生態、観測隊の仕事などを紹介。生徒からは「南極ではどんな食べ物を食べていますか?」、「寒さ対策はどうしていますか?」といった基地の生活などに興味津々の様子。質問には道内出身の隊員らが、現地から一つ一つ丁寧に回答しました。隊員に質問した生徒は「今までにない体験で、南極が普通のところは違うと感じた。行ってみたいくなった」などと感想を話していました。

ズームアップ



7月17日、北防波堤ドームでは「WAKKANAI みなとコンサート」が行われ、コーラスやゴスペル、バンド演奏など様々なジャンルでの音楽グループ・サークルなど12団体、230人が出演。ドーム全体に響き渡るような熱唱や、パフォーマンスが披露されました。なお、今年は北防波堤ドームが完成してちょうど80年。これを記念し、前夜祭やドームの歴史を記録した写真パネルの展示などもあわせて行なわれました。

竣工80年〜ドームに響く歌声

かわいいおもてなし♡



7月22日、稚内空港では、鈴蘭幼稚園の園児たちが旅行客をお出迎え。自分の街にたくさんの観光客が来ていることを知ってもらおうと、稚内観光協会青年部が企画したもので、園児手作りの小旗を振りながら、飛行機を降りたばかりの乗客の皆さんへコースターをプレゼント。「稚内へようこそ!」と先を競うように渡していました。受け取った皆さんも、思わぬ歓迎にびっくりしながらも、うれしそうにお礼を言って空港を後にしていました。



笑いある楽しいまちづくりサロン



地域づくりについてみんなで話し合う「まちづくりサロン」が6月28日、こまどり町内会館で開催され、地域の皆さんや大学生など約30人が参加。このサロンは、市が開催している「協働のまちづくり講座」の受講者の方が、役員を務めるこまどり町内会で提案し実施したものです。「協働のまちづくり講座」は、「気楽に楽しく中身濃く」をテーマに、地域づくりの会議(サロン)や仲間づくりの話し合いを円滑に行っていく手法等を学ぶもので、これまで多くの市民の方が受講しています。町内会単位では初めての試みとなった今回のサロン。「住み慣れたこまどり町内会で安心して暮らせる楽しいアイデアを出し合おう」をテーマに、大漁旗を張った居酒屋をイメージした会場で開催。参加者は6つのグループに分かれ、まず、それぞれの考えやアイデアを付箋に書き出し、みんなで話し合いをしながら、最



後一枚の表にまとめてグループごとに発表。「町内は」坂道が多いので、休憩できるベンチを置いてほしい、「挨拶、見守り、隣人同士助け合おう」など笑い声が響く楽しい雰囲気の中、いろんな意見が出されました。参加した皆さんは、「町内会でこういうテーマで話したことがなかったの

でよい機会だった」、「皆さんが、町内のことを真剣に考えてくれてるのがよくわかった」、「アイデアがたくさん出て町内会としても参事となった」など、有意義なサロンになったようです。なお、「協働のまちづくり講座」は、今年度はあと2回実施されます。町内会の皆さんをはじめ、市民の皆さんのご参加をお待ちしています。(市地方創生課)

災害時の救護体制を強化

7月1日、市は公益社団法人北海道柔道整復師会名寄ブロック(辻内栄一会長)と「災害時における柔道整復師の救護活動に関する協定」を締結しました。これは災害発生時に負



傷者が多数発生し、医療機関による治療が追いつかない可能性がある場合、柔道整

復師の皆さんに骨折や打撲などの傷者に対し、応急処置の手当を行っていただくことで、更なる救護体制の拡充を図るものです。なお、災害時における稚内市と関係機関・団体との協定締結は38例目になります。(市総務防災課)